声なき感染症を知る ◆20◆

原因不明の弛緩性麻痺

子どもへの流行懸念

原因ウイルスを調査

県感染症情報センター

今年の8月以降、発熱や咳(せき)などの症状の後、ポリオに似た弛緩性麻痺（しかんせいまひ）を訴える子どもが相次いで報告されました。一部の患者からは「エンテロウイルスD68型」（以下D68）と呼ばれる聞きなれないウイルスが検出されています。

今回は、「原因不明の弛緩性麻痺」の原因ウイルス調査が始まったという情報を提供します。

▽エンテロウイルスD68型

弛緩性麻痺（筋肉がぐにゃぐにゃになり、動かなくなる症状）の原因ウイルスかと疑われているD68は、エンテロウイルスと言う総称名で呼ばれているウイルスの一つで、仲間にはコクサッキーA群およびB群ウイルス、エコーウイルス、ポリオウイルスなどがあり、症状は多彩です。

D68の発見は、1962年に米国で呼吸器疾患の子どもから検出されたもので、68の番号が与えられ「D68」と命名されたものです。

▽米国での大流行

その後、大きな流行を起こしたことはなかったのですが、2014年8月、米国中部のミズーリ州とイリノイ州で、子どもの喘息(ぜんそく)様の呼吸器疾患が急増し、一部の患者からD68が検出されたとした情報が、米国疾病管理予防センター（CDC）に寄せられました。

その後、この原因不明の病気は全米に広がり1千人を超え、一部の患者で急性弛緩性麻痺が見られたことから、CDCは子どもの喘息様の重症呼吸器疾患については、D68を原因として考慮すべきとの情報を医療機関に発信しました。ただ、今回の急性弛緩性麻痺とD68の関連性は、現在も分かっていません。

▽国内の発生状況

わが国ではことしの夏、東京都や埼玉県で呼吸器症状を訴えた子どもに急性弛緩性麻痺が現れて入院、退院後も後遺症が残った」との国立感染症研究所からの報告を受け、日本小児神経学会が、弛緩性麻痺が認められた患者を緊急調査したところ、全国で40人強の同様の患者情報が（中間報告として）寄せられたのです。

患者年齢は生後1カ月から11歳（中央値3歳）で、関東および北九州地域で患者が多く発生していました。ウイルス検査の結果からは、一部にD68が検出されていますが、他のエコーウイルスやコクサッキーウイルスなどが検出された症例も含まれていました。

この様な混乱状況を受け、厚生労働省は10月、全国の自治体を通じ「急性弛緩性麻痺を認める症例の実態把握について」と題した通知を行い、地方衛生研究所でのウイルス検査の実施要請を行いました。今後は、調査が進むことで評価できうる症例数の確保とともに、急性弛緩性麻痺とウイルスとの関連性が明らかとなることが期待されています。

▽手洗いが有効

このD68型はエンテロウイルスに属することから、流行シーズンは夏から秋にかけてと考えられていますが、子どもの喘息様の呼吸器疾患は要注意です。

現状では特効薬はなく、症状に応じた対症療法が中心となります。一般に、エンテロウイルスは飛沫(まつ)感染と接触感染で感染すると言われていますので、こまめな手洗いが有効と考えられます。

（県感染症情報センター）

＝第2木曜日掲載＝